

Mamiya

Vol.
12
2006

AUTUMN/WINTER

Gallery

Photo/秦 達夫





総評

MCCフォトコンテストも13回目を迎えました。今回のコンテストも良い作品が多かったのですが、惜しくも選にもれた作品のなかで、特に目立った理由のひとつがピントについてでした。

例えば、望遠レンズで中景を撮影した作品の中に、ピントを合わせるべきところにあっていないものがありました。中景でも望遠レンズでは被写界深度が極端に浅くなるので、ピントの山がつかみやすくなる反面、微妙にずれることがあります。この対策としては、ピントの合わせる位置を少しずつ変えて撮影しておくことをおすすめします。

一方、広角レンズを使った作品では、絞りが足りずに画面全体にピントが合っていないものが目立ちました。広角レンズではパンフォーカスが理想です。中判カメラは35mm判より被写界深度が浅いのでピント位置を決めたら絞りをいっぱい絞って撮影してください。

以上、ピントに関するこの二点をよく理解していただき、今後の作品作りに生かして欲しいと思います。

日本写真家協会会員 原 弘男

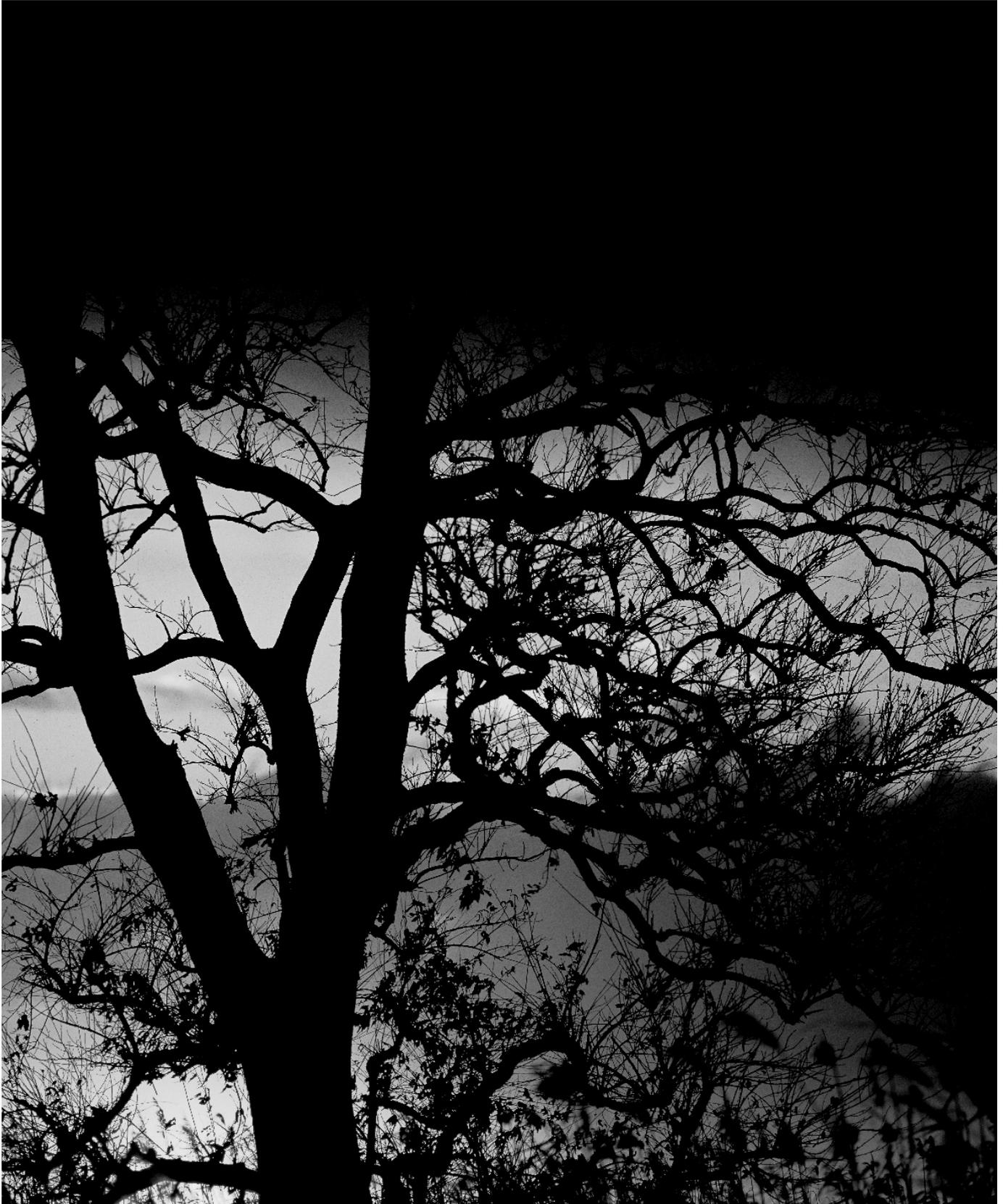
金賞

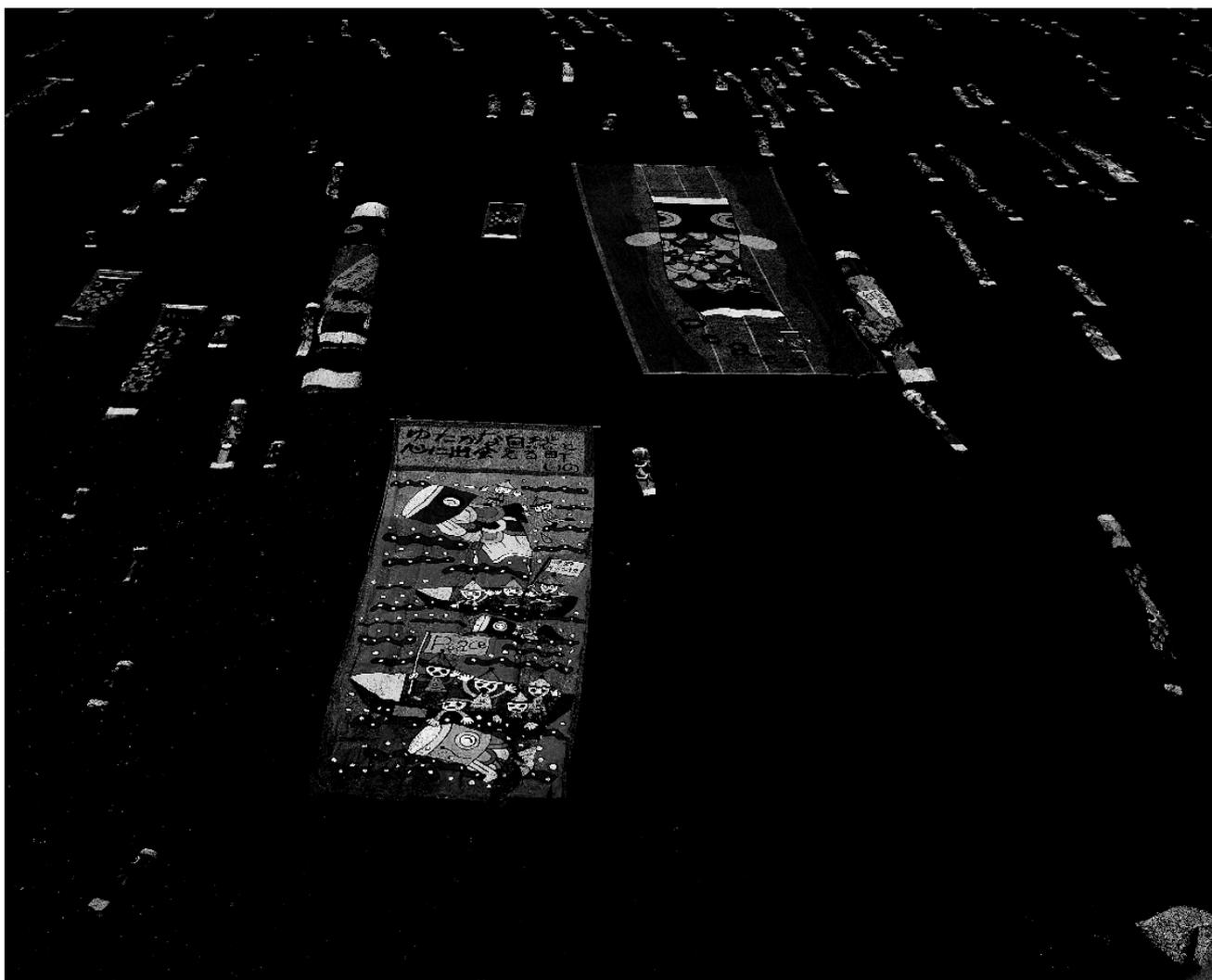
『昇 陽』 中田 友一(栃木)

朝焼けの雲がまるで野焼きの炎のように見えて怖いくらいの迫力を感じます。手前に大きく木を入れたことで想像力が生まれ、燃える雲のイメージがより強くなっているように思います。

RZ67プロ Z350mmF5.6 f6 1/250 秒 RVP100







銀賞

『仁淀の鯉』 入江 貞義(愛媛)

鯉の大小やレンズの遠近感などの効果で画面に動きがあり、まるで鯉が本当に泳いでいるように見えるのが面白いですね。アンダーな露出で川面を黒くつぶしたことも成功でした。

マミヤ7Ⅱ N150mmF4.5L f16 1/250秒 FortiaSP UV



銅賞

『雪原霧想』 井澤 信夫(埼玉)

昨シーズンの冬の豪雪では雪国の方々に大変なご苦労があったと思います。例年では見られない残雪と新緑の対比が、シンプルな構図と相まって爽やかで美しく表現されています。

645プロTL ULD C300mmF5.6N f22 オート RDPⅢ



銅賞
『石塔霧景』 大橋 茂夫(奈良)

中国の黄山を思わせる日本ばなれした景色に驚かされました。霧の効果でスケールの大きさが出たことと、青いモノトーンの色調が幻想的な雰囲気盛り上げています。

645AFD II APO300mmF4.5IF f16 1/8 秒 RVP100



入選
『ダブルダイヤモンド富士』
佐藤 進(東京)

見事なダブルダイヤモンドですね。いろいろな形の雲が画面に変化をつけて天空のドラマを盛り上げています。プリントでは右をカットして応募されていますが、むしろ左を切って右の空を活かしたほうが良かったと思います。

645プロTL C55-110mmF4.5N f22 1/250秒 RVP PL



入選
『明け行く高原』 山崎 泰(栃木)

夏の高原独特の朝の気配が漂い、ひんやりとした冷気が伝わってきます。山の入れ方など画面構成に安定感がありケレン味のない静かで落ち着いた印象の作品です。

RB67プロSD KL180mmF4.5L-A f22 1秒 RDPⅢ



入選
『春爛漫』 山田 宏(大阪)

まさに春うららといった情景がよく表現されています。特に竹の緑がみずみずしく写っていますが、フィルムの選択が良かったからでしょう。絶好のチャンスをものにした作品です。

645AFD AF105-210mmF4.5 f22 オート -0.3EV補正 RVP



入選

『夜明け』 山本 貴一(新潟)

霧が程よくたなびいて、棚田で名高い松代の特徴をよく捉えています。この作品のポイントは太陽ですが、もう少し顔を出したときのほうが朝日らしく見えると思います。

645AFD AF105-210mmF4.5 f22 1/8秒

RVP100 ND



入選
『爽涼槍ヶ岳』 小田 薫(東京)

安定した構図が大変素晴らしく、光線の具合もベストでスケールの大きさがよく出ています。マミヤ7の機動性と大画面の迫力を生かした山岳写真をこれからも期待しています。

マミヤ7II N65mmF4L f11 オート RVP100 SK



入選
『燃え立つ』 松野 敏秀(東京)

絶好のチャンスをしっかりと技術で捉えた作品です。望遠レンズによるフレーミングが的確なことや、川の流れや霧の具合に動きがありとても迫力が出ています。

645プロTL C300mmF5.6N f16 オート RVP UV



入選
『秋陽に輝く』 井川 クキ子(東京)

湖面に浮かぶ枯葉の形が面白く、太陽をポイントに入れて作品にまとめたカメラアイはお見事です。ただ右手前の枯れ枝などはカットしたほうが良いでしょう。

645AFD AF55-110mmF4.5 f22 1/15秒 RVP100



入選
『叙』 鈴木 洋一(新潟)

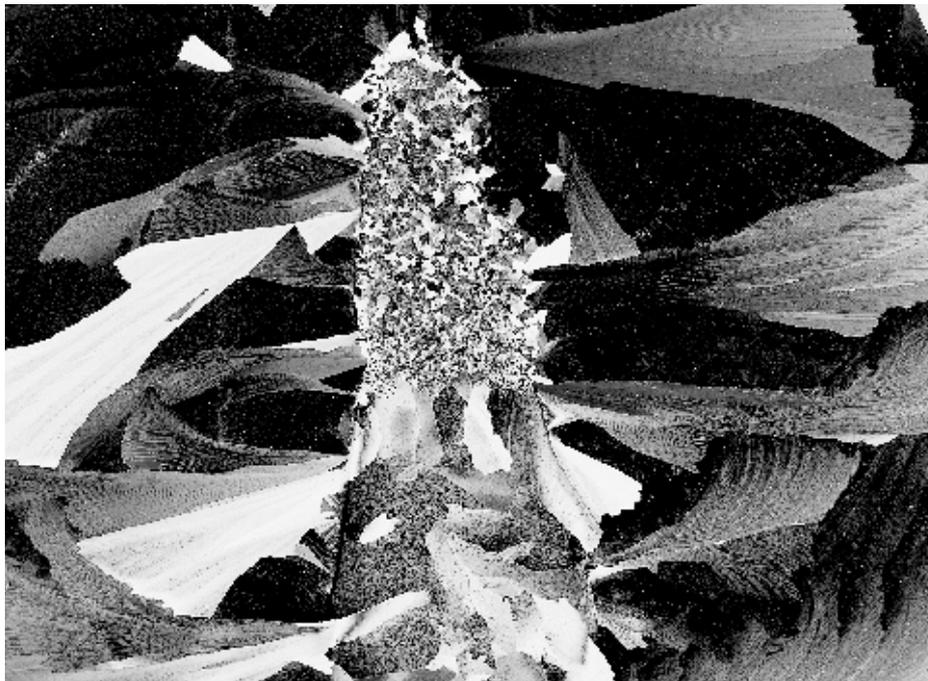
ここが蒲池の棚田とは想像しがたいですね。それだけこの冬は雪が深かったのですね。朝の斜陽とアンダーな露出で雪の質感がよく出ており、フレーミングが的確なので造形的にも優れています。

645AF AF105-210mmF4.5 f16 1/125秒 RVP100



入選
『光景』 川野 豊彦(広島)

晩秋の野の何気ない風景を、味わいのある作品にした作者の感性と表現力に感心しました。葉の落ちた枯れ木にキラキラと光の花が咲いている様子がとてもきれいです。
645プロTL ULF C105-210mmF4.5 f16 オート RVP



入選
『アイスオブジェ』 生頼 弘(奈良)

自然が作った造形の妙とも言いましょうか、まるで顕微鏡写真を見るような不思議な美しさがあります。露出を少しアンダーにすると紅色が濃くなりシャープ感もさらに増すでしょう。

645AFD AF55-110mmF4.5 f16 オート -0.3EV補正 RVP100 PL



Photo Contest

14

写真の醍醐味、多彩な個性の競演…

それがMCCフォトコンテスト。

第14回の応募期間は2007年1月12日(金)です。

写真テーマは自由です。ふるってご応募下さい。

「秋の裏磐梯撮影会」コンテスト 入賞作品

総評

新緑の裏磐梯は少々(?)の雨もようで、しかも薄日も時折訪れるという“何でもあり”の天候条件でした。それでも日本の山の初夏を象徴する新緑とほんのりとした大気感に、その季節ならではの風情をカメラアイに、いわば翻訳するように作者たちはしみじみとした風土感を表現されています。

撮影の条件としてはいささかむずかしかったあの風景を上手に自分のものにされている作品を拝見して私もあのときを思い出させていただきました。

撮影指導・作品選 川口邦雄



金賞 『雨の合い間』 佐久間 弘(東京)

霞のソフトな空気感の中に盛んな樹々の新緑がちりばめられていかにも山の初夏を感じさせます。遠景にチラリと陽ざしがきたチャンスをうまくとらえて雰囲気を高めています。500ミリレンズ、絞り45の使いこなしはお見事!

RB67プロSD L500mmF6 APO/L f4.5 1秒 RVP100



銀賞 『みどろ沼』 荒川 信利(埼玉)

色彩のバラエティが大変みごとです。タテ位置に階段状に構成したのもなかなかよく考えられています。カメラポジションには大変苦心したことでしよう。7Ⅱに210ミリレンズをよく使いこなしておられますね。

マミヤ7Ⅱ N210mmF8L f32 オート E100VS



銅賞 『緑の変幻』 小田 薫(東京)

歩きながら眺めていると「いいなあ」と思っても立止まるとちょっと印象が薄まってしまうということがよくあります。ことに裏磐梯の森の中などはそうですが、小田さんのこの作品はパッと感じたつかの間の美景が上手に写しとめられていますね。

マミヤ7Ⅱ N210mmF8L f22 オート RVP100 PL



銅賞 『猫マの滝』 磯崎 和夫(埼玉)

点在する草の緑と流水が心地よい配置に構成されています。スローシャッターでの流れのブレもよく考えられています。画面下方のフキや草葉も上手にとりいれられて一風景をかたちづけているのがいいですね。

RZ67プロⅡ Z250mmF4.5W f22 オート E100VS



JTB賞

『シダ映える』 井川 クキ子(東京)

しっとりとしたシダの新葉が花びらを浮かべ、ちょっとクセありげな樹幹とのとりあわせが大変しゃれています。

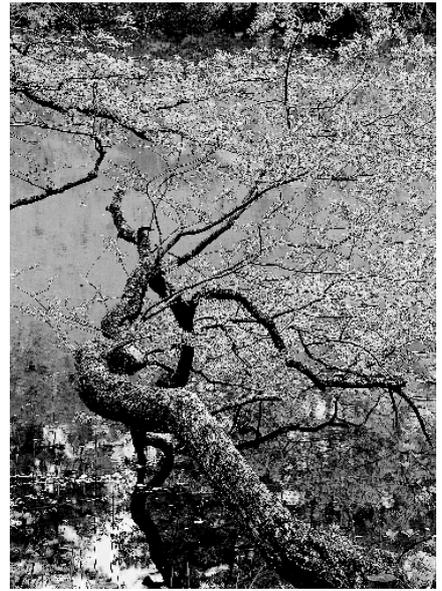
645AFD AF45mmF2.8 f22 3秒 RVP

入賞

『沼辺に生きる』 川崎 茂(茨城)

湖の青と新緑がとてもよい対照をなしています。画面下部が少々重いのもう少し天部を多くフレーミングするともっとよくなります。

645プロ C105-210mmF4.5N f22 オート E100VS



入賞 『初夏幻想』 細谷 一男(静岡)

ツル草の新緑が、樹幹により表情をつくっています。しかし画面の中心にあるのでこれをもう少し右か左に位置させて構成を整えるともっとよくなります。

645プロTL A150mmF2.8 f22 1/4秒 RVP100



入賞 『清流』 松野 敏秀(東京)

樹と清流を上手にとりあわせていますが、樹が画面上ちょっと多いので、もう少し左辺を少くして構成したかったところです。

645プロTL C55-110mmF4.5N f11 オート +1/2EV補正 RVP100



入賞 『新緑のせせらぎ』 八坂 博孝(神奈川)

少々露出をオーバーにしてハイキー調にすがすがしさを上手に表現しています。流れを画面の中心部にとりいれています、下流部に少しゆとりを持たせたかったところです。

RB67プロSD KL65mmF4L f16 1/4秒 RVP100 PL



入賞 『原始の森』 行川 征子(埼玉)

しっとりとした気分が魅力的です。645に35ミリレンズなら天部をもう少し少なくし、前景をもっと強調したらなお迫力的だったでしょう。

645AFD AF35mmF3.5 f11 1/2秒 FortiaSP

私の撮影スタイル

秦 達夫 Hata Tatsuo

私の撮影スタイルは年齢とともに変わりつつあることに最近気がついた。写真を20代半ばで始めた私にとって若かった頃と言うよりも写真を始めた頃と言う表現が正しいと思うのだが、機材を買い揃えるお金も仕事もなく35mmカメラにレンズは50mmだけしかなかった。仕方なくある機材で、もしくは友人にレンズを借りてフィールドに出かけていた。

アシスタントになり事務所の機材を借りられるようになった時、35mmのセットを自由に扱えるようになった。20-35・28-80・80-200のズーム3本にボディ1台ロングで出かけるときには先輩をお願いしてボディをもう一台バックに詰め込んだ。事務所入社第一日に始めて撮影機材は重たいものだ実感したのだった。それから本格的にアシスタント業務が始り日本各地から世界各国を35mmフルセット(ボディ2~3台レンズは17mmから1000mm対応)645フルセットボディ2~3台レンズはフルラインナップ)67フルセット(ボディ2~3台レンズはフルラインナップ)を絶えずスタンバイしていた。

アシスタント時代は特殊な時代でこれらの機材は運ぶだけで自分の撮影には貸出機材の35mmのセットだけであった。この頃からフォーマットの違いで写真が変わることの重要性を実感し始めるのだが独立してからも各フォーマットを買い揃える事はなかなか出来ない日が続いた。その後、仕事が順調になりパワーに任せて中判セットと35mmセットをザックに詰めてフィールドに出かける日々が続くのだが、飛行機を使う取材になると持ち運べる機材の重量制限が急に私の機材セレクトに影響を与えるようになった。なぜなら私の撮影スタイルはキャンプが中心となるためテントなどの備品が絶えず追加されたためだ。「こんなに機材は持ち出せない」そこでRF(レンジファインダー)の中判カメラが私の心を鷲掴みしたのである。

軽量でコンパクト、確かに山岳写真家はMamiya 7を使う方が多い。先輩から安く譲りうけたNewMamiya6から最近ではMamiya7 IIを手に入れて海外取材や山に入る取材には中判RFと35mm&デジタルセットのスタイルにすることが増えた。勿論、重量制限がないときや車での移動が可能な取材はAFD IIなど一眼レフを出动させる。なぜならレンズバリエーションも多くファインダーで画角がダイレクトに確認できる645のほうが直感的に撮影できるからだ。



プロフィール

1970年長野県生まれ。
自動車販売会社退職後、写真家竹内敏信氏のアシスタントを経て独立。
国内では「ふるさと」をテーマに自然風景や民族芸能を取材。その一方でアラスカやニュージーランドで精力的に取材を行っている。また、アマチュア指導にも定評がありカメラメーカーやフィルムメーカーの写真教室で講義を行っている。



Mamiya7 II N43mmF4.5L f11 オート -2/3EV補正 RVP100 三脚使用 撮影地カナダ・クイーンシャーロット島

表紙 NewMamiya6 N150mmF4.5L f16 オート -2/3EV補正 RVP100 三脚使用 撮影地ニュージーランド・サザンアルプ



645AFDII AF ULD105-210mmF4.5 f11 オート -2/3EV補正 RVP100 三脚使用 撮影地 白駒池



マミヤZD AF APO 300mmF4.5IF AV f11 オート -1EV補正 WB 太陽光 感度100 三脚使用 撮影地 八ヶ岳

MAMIYA 7II 銀塩距離計連動カメラを うまく扱うには

講師 山崎 正路

マミヤ7IIのような距離計連動式のカメラはファインダー内の二重像を一致させることでピント合わせができますが、被写界深度目盛で目測撮影にも挑戦してみてください。

一眼レフの様に解放でファインダーを見ている訳ではありませんので被写体までの距離感のつかみ方や、パンフォーカスで見ているファインダーの特徴を理解出来ると、画面の中心に主役をおかないなど画面構成が作りやすくなります。

また、レンジファインダーカメラのスナップでは絞り、被写界深度を利用して撮影距離を固定して撮影する方法などもあります。AF一眼レフカメラや、デジタルカメラとは違う写真を撮ることが出来ます。

マミヤ7IIの標準レンズは80ミリで35ミリ版の40ミリ程度になります。風景やスナップ向きの準広角レンズです。6×7cm判サイズはレンズの焦点距離の約半分が35ミリカメラの焦点距離と考えて下さい。210ミリや150ミリでは切り取り効果も望めますがいわゆる中望遠レンズです。

150ミリ80ミリ65ミリのレンズはカメラのファインダー内にシャッタースピードとともにレンズ交換ごとにフレームが表示されます。43ミリ50ミリ210ミリは外付けファインダーを使用します。レンズは広角系を中心に2~3本程度で活躍できるカメラです。21ミリ相当の超広角43ミリと広角ぎみの標準80ミリの組み合わせや、広角65ミリと中焦点150ミリの組み合わせなどが良いと思われます。

ズームレンズになれた人には物足りないかもしれませんが広角や標準が主力の写真では改めて単焦点レンズの良さを感じさせられます。単焦点の画角に合わせる写真撮影に慣れてくると頭の中で画面を作る様になります。

マミヤ7IIのように中判でもカメラが軽いと荷物が少なくなりまず。その分フットワークを生かした写真が狙えます。絞り込むことの多い風景、高画質を求める山岳写真などを撮る時には、もってこいのカメラです。

マミヤ7IIはカッコいい

距離系カメラではファインダーの中にレンズ毎にブライトフレームを表わすことにより写す範囲を決めます。

マミヤ7IIでは65、80、150ミリレンズはファインダーの中でフレームを見ることが出来ますが、それ以外のレンズは外付けのファインダーで撮影範囲を決めます。

一眼レフカメラばかりを使用しているとレンジファインダーカメラの外付けファインダーがかっこよく見えてきます。

マミヤ7IIの外付けファインダーはクリヤーで見やすく落下防止めネジでアクセサリシューに固定でき、視度調節も出来ます。

外付けファインダーを使用する広角レンズは広い範囲を捕えますが、ポイントが無いと写真が散漫になりがちです。広角の遠景は誰でも同じ風景に見えます、少しぐらい撮影位置を動いても変化がありません、広角を上手く使うには近景に主となるポイントを探しそこから遠景に視線を導くように画面構成を考えます。

広角レンズの使い方のポイントは遠近感のパスを生かしディフォルメーションの効果を生かすか、広角であることを感じさせない撮り方にするかなどです。

レンズの作画目的をはっきりさせることが良い写真のポイントになります。



被写界深度目盛



43ミリファインダー

マミヤ7Ⅱは広角レンズが得意です／N43mmF4.5L

離れた太陽等は望遠レンズで大きく撮ることと決めつけていませんか？
 中途半端な望遠レンズではあまり変化がある写真にはなりません。
 逆に広角で太陽を撮るには近景にポイントを探し遠景に視線を導くように画面構成を考えます。6×7の対角は左右の広がりも出しにくいので右の写真のように縦位置にして手前にオブジェを入れ遠近感を強調しています。この場合広角の深い被写界深度は有効です。



アクセントがないと変化がない



手前にポイントを入れ画面に変化を出す

マミヤ7Ⅱで街中をスナップ／N80mmF4L



東京／青山

日頃見なれた街でも、撮影する気持ちでみわたすと色々な発見があります。花を見つけるとマクロレンズでアップの写真ばかりを撮っていませんか？花に囲まれたカフェの人々も画面に組み込んでみました。人々の表情や、ガラスに写った横文字もオシャレな街であることを演出できます。6×7cm判のような大きなフィルムサイズのカメラは細かな花の1枚まで描写します。



東京／原宿

距離系カメラではノーファインダー（ファインダーをのぞかず）にスナップすることもあります。カメラを意識させないことで自然な表情を撮影できます。

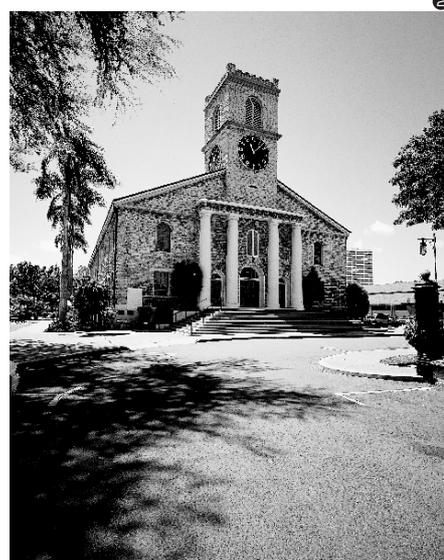
背景を決めておいて、ピントを合わせた位置に人が入ったらシャッターを切ります。シャッター音の静かなマミヤ7Ⅱのレンズシャッターの魅力です。

マミヤ7 II を使いこなすと色々な表現が可能になります / 43mm

フィルムサイズが大きいと、写真をトリミングしてもある程度の画質の低下は防げます。

ノトリミングで写真を撮ることは基本ですが、表現を変える目的の時は大胆なトリミング写真を作ることもあります。

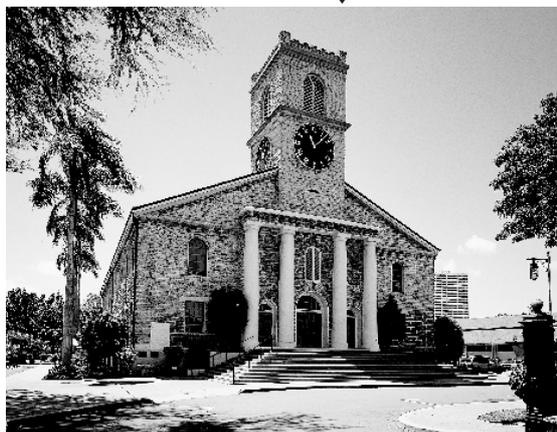
いつもズームレンズで同じ位置からフレームを決めていませんか？ 同じレンズでもカメラアングルで写真が大きく変わります。単焦点レンズでもズームレンズでもフットワークは大事です。



建築撮影

① 43ミリのワイドレンズで下から見上げることで大きさや遠近感を強調することが出来ます。出来るだけ被写体に近づき絞り込んで被写界深度を深くしてピントを全体に合わせます。

② 建物の垂直を出すために、被写体から離れカメラを縦位置にして建物の垂直を出して撮影後、下半分をトリミングして6×4.5cm判の横位置の大きさとして仕上げます。歪みがなくなり正確に建物の形が分かります。4×5inchカメラのライズアオリと同じ効果です。



多重露光

フィルムカメラ、マミヤ7 II では簡単に何度でも多重露光が出来ます。重なりがある画面の場合、2回露光する場合マイナス1絞り、4回でマイナス2絞りが基本の露出補正です。デジタルPCの合成とは違い想像のできない写真が期待できます。

4回露光

ポジフィルムは鮮やかな発色で優れたカラーバランスを持っています。ブローニーサイズのカメラではデジタルを超えた解像度もあります。デジタルデータの色見本サンプルにすることもあります。マミヤ7 II はデジタルカメラと共用できるカメラです。銀塩距離計連動カメラマミヤ7 II には道具として存在感もあります。

マミヤ7Ⅱは三脚が使用できない場所でも高画質な写真が写せます



川越祭り

お祭り等の人込みでは三脚は使うことが出来ません。手持ちでブレさせないために高感度フィルムを使います。

以前だと高感度フィルムは粒子の粗れが気になりましたが、今では微粒子のフィルムも販売されていますし、中判カメラではフィルムサイズが大きく粒子の粗れをカバーでき、細部のデテールまで表現することができます。



N80mmF4L

海外旅行に軽量なマミヤ7Ⅱ



最近海外旅行も安く簡単に行けるようになりました。写真を撮る人にとっては海外は物珍しい被写体にあふれています。

少しでも身軽に写真を撮りたいが35ミリデジカメだけでは物足りないと思っている場合などこ一番の勝負は銀塩中判マミヤ7Ⅱがベストな組み合わせです。

飛行機では三脚や一脚は機内持ち込みが禁止です、スーツケースに収まる長さの物を選択します。ミラーショックが無く軽量なマミヤ7Ⅱは三脚も小さくて済みます。マミヤのカーボンタイプの



ハワイ オアフ島

三脚と自由雲台の組み合わせがお勧めです。荷物を減らすためやフィルム交換を減らすために220フィルムを選択するのも良いでしょう。

フィルムは予備電池とともに多めに用意しましょう。海外では購入が難しく、なにより時間が無駄になります。

山岳写真のススメ ② ブラケット撮影で本当の適正露出を知る

川口 邦雄

ブラケットとは段階露出のこと、つまりトータルに適正測光しにくい被写体、ことにコントラストが強い対象の、とりわけその中の狙ったところにバランスよく適正露出をアテるための方策です。

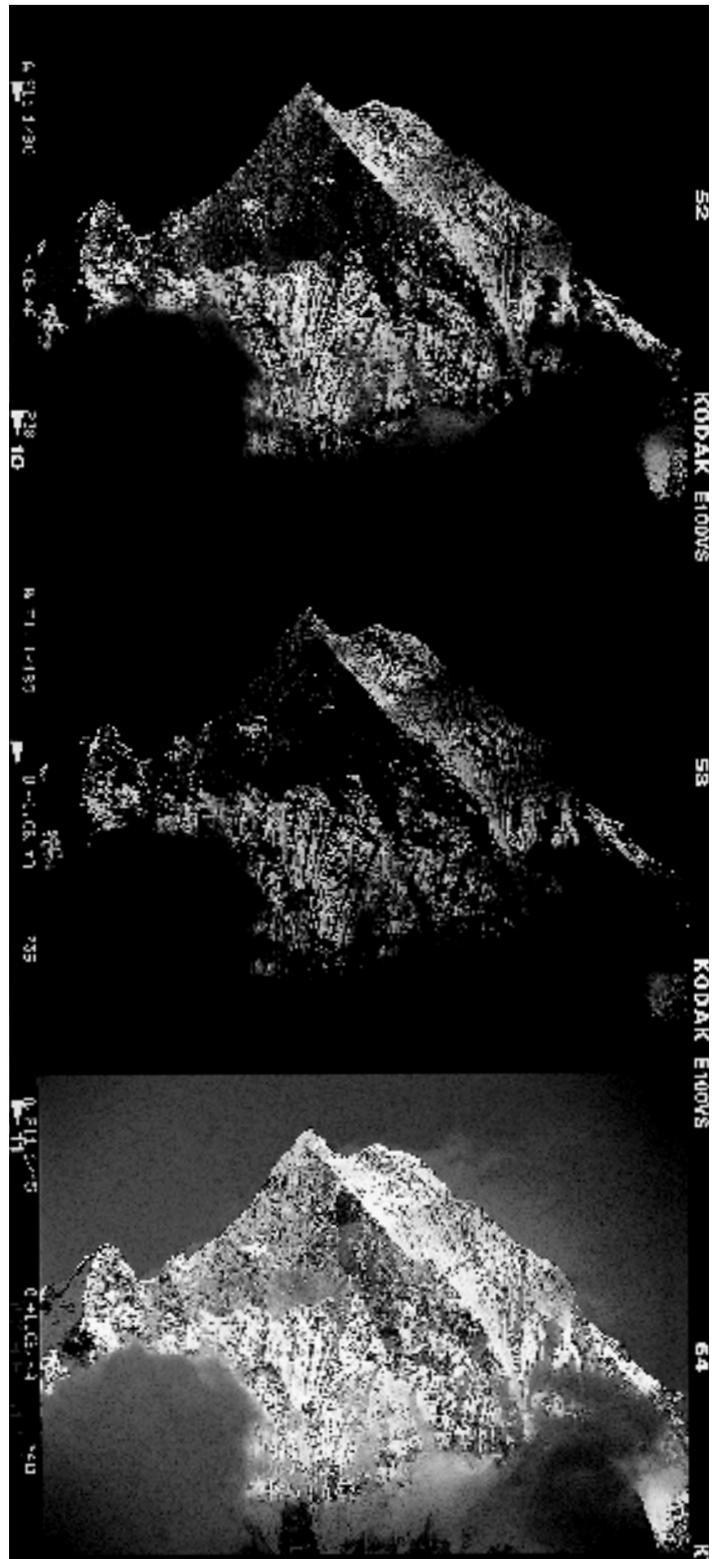
山岳写真ではことに雪山の撮影のとき、このコントラスト比が問題でウツカリすると、雪や氷のハイライト(とくに光の反射率の高い新雪の白)が真っ白に近くとんでしまってディテールの再現ができないということがあるのです。

そんなこといったってフィルムにもラチチュード(露出許容範囲)というものがあるってかなりな明暗差だって再現できる筈じゃないの、といわれるかもしれませんが、それはせいぜい2EV位(デジタルはもっときびしい)でもリバーサルカラーのキリッとした明暗描写は魅力的ですね。そればかりではなく実景の条件やカメラの測光機能のしくみによって、氷雪などの強ハイライトは調子がとんでしまうか、ツブれるかのちがいが生じる。そこでAE基準のブラケットの必要性が生じてくるわけなのです。作例はヒマラヤですが条件は日本の雪山もおなじ、ちょっと陽が西に傾いた頃の雪山の情景です。

さて、三つのブラケットですがフィルム端のデータでおわかりのようにAE基準で1EVごと-1、+1です。これをみますと見た目には+1がいいように思えます、でも光峯の右あたり、岩壁の下あたりの雪をみて下さい。露出がオーバーで雪の表面のディテールがとんでいます。

こうして一旦調子がとんでしまったものはその情報がなくなってしまったので仕上げのときに焼込んでも調子を戻すことはできません。だからこの場合、引伸しなど仕上げをするにはAEそのままか、AE-1がキリッとくるのですね。でもそれじゃ暗すぎるヨ、といわれるかもしれませんが、しかしAEでも-1でも仕上げのとき明るく仕上げてもらえば見た目の+1と同じになる。しかもハイライトはトンでない。ということになるわけ。

さて、おわかりですか?こんな条件の雪山撮影ではいふなれば、気持ちアンダー気味のオリジナルを作るのが最もいい、というわけなのです。そのためブラケットを活用するわけ。



「マチャプチャレ斜陽」6993mネパールヒマラヤ マミヤ645 AFD210mm PLフィルター使用 E100VS

フォトクラブ&ファミリー会員 ブローニーフォトコンテスト

このコンテストは、コダックフォトクラブ、日本ハッセルブラッドフォトクラブ、ペンタックスファミリー、マミヤカメラクラブが合同で開催した会員限定のイベントです。応募は中判カメラで撮った作品に限られますが、それだけにレベルの高い力作が多数応募されました。審査の結果、秀作 30点が選ばれ、入賞作品展がコダックフォトサロンで開催されました。ここでは上位4点を紹介します。

■募集締切:6月30日 ■応募人数:244名 ■応募枚数:568枚

審査/評 岩本恵次

主催/コダックフォトクラブ、日本ハッセルブラッドフォトクラブ、ペンタックスファミリー、マミヤカメラクラブ

総評/中判カメラの特徴を生かすにはしっかりと画面構成とシャープなピントが求められます。その意味で入賞作品はどれも被写体を確かな観察眼と構成力でしっかりと捉えた作品が多かったように思います。



金賞 『新緑の森』 大橋茂夫(奈良)/MCC

樹木の形の良さのみならず、周囲の状況をしっかり見据えた画面構成で、味わい深い作品となっています。



銀賞 『晩秋』 大倉一(東京)/HPC

地味な被写体、地味な色合いの光景をこれだけの作品にまとめ上げたところに確かな力量を感じます。



銅賞 『岩と清流』 鈴木宏(茨城)/KPC

岩肌の硬質な質感と水の流れの柔らかさを巧みに対比させたバランスのよい作品です。



マミヤカメラクラブ賞 『初霜』 富野順一(広島)/KPC

霜に緑どられた赤い葉が、とても印象的です。リズムカルで楽しい雰囲気すら感じます。

「写真は二度楽しめる」

秋田 淳之助

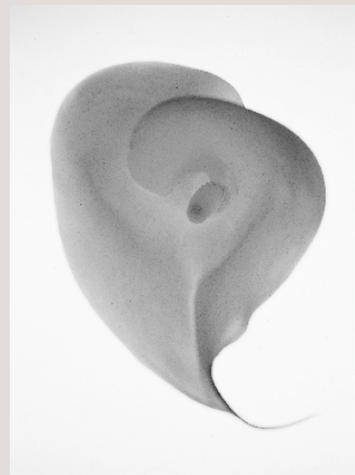
終戦直後、オジが務めていた時計屋さんからカメラを持ち帰ってくるのが楽しみで、よく空シャッターを切らせてもらった。後年わかった事ですが、そのカメラがライカであったことにとても驚いた記憶があります。

美術教師を目指し、画家、グラフィックデザイナーにも憧れ、大学へと進学。教員採用も決って卒業式寸前に絵を断り、カバン一つで上京する。写真家への道を歩みはじめる。4年間のサラリーマン生活から独立し、フリーとなり40年近くになりますが、今だに写真の魅力に浸っています。コマーシャルの仕事の合間に作品づくりに励み、20回の個展も開きました。

ここ数年前から、アマチュアの方々の指導に力を入れ、長年のノウハウを一人でも多くの方に伝授出来ればとの思いで多くのクラブ等と関わっています。写真は、撮る時にドキドキし、撮って出来上りを見る時に又ドキドキと2度楽しめてとても面白い表現の

世界だと思っています。

被写体さがしに外に出る。出合いを期待し感動が撮る行為を後押ししてくれることも現場でのうれしい一時です。まず撮ることです。良い悪いはその時の運です。そう気にしない方が良いでしょう。そんなに良い写真ばかり撮れるはずがない。撮れないから又、今度こそと、思うのです。こんなことの繰り返し、少しずつ進歩し一枚でも多く気に入った写真が撮れるようになる仕組みではないでしょうか。表現する為には相応の努力とエネルギーが必要です。過程よりも結果が大事です。良い結果を得る為には私は現在「こだわり」を持って撮影にのぞんでいます。この「こだわり」こそ今一番大切な写真表現の要素ではないかと日々こだわりつづけています。カメラ機材をはじめ、フィルム運びもその一つ。今、こだわってE100Gを使って満足しています。「写真は二度楽しめる」。



●カメラ/マミヤ7 セコール45mm f8・オート ●フィルム/コダックE100G ※白い花の写真はマミヤ645 マミヤ120mm マクロレンズ f11. 1/00 大型ストロボ使用

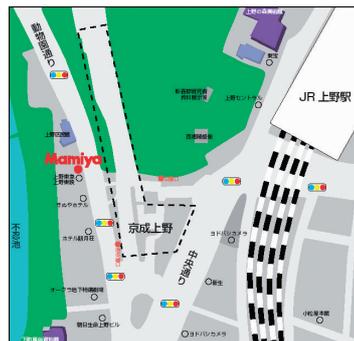
マミヤカメラクラブ事務局移転のご案内

去る9月1日、マミヤカメラクラブを運営して参りましたマミヤ・オーピー株式会社はマミヤ・デジタル・イメージング株式会社に対し光学事業を譲渡致しました。それに伴ないましてマミヤカメラクラブもマミヤ・デジタル・イメージングを運営母体にして新たに事務局を移転致しました。クラブ員の皆様にはご心配、ご迷惑をお掛けいたしておりますが、1955年設立の歴史あるマミヤカメラクラブは今後、従来にも増して活動を続けてまいります。

クラブ員の皆様におかれましては今後も変わらぬご愛顧を頂けますようお願い申し上げます。

マミヤカメラクラブ事務局

〒110-0005
東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F
TEL 03-5688-8024 FAX 03-5688-8039
*東京サービスセンターも上記住所に移転しました



マミヤカメラ展のお知らせ ~発明と工夫のあゆみ~

2006年11月21日(火)~2007年3月4日(日)

日本カメラ博物館におきまして特別展「マミヤカメラ展」が開催されます。

マミヤカメラクラブに関する展示も行っております。MCCクラブ員の方は会員証をご提示いただくと割引料金になりますので是非ご高覧下さい。

国産最初の「金銭登録機（レジスター）」を手がけた発明家の間宮精一は、長年の願望であった外国製品にひけを取らない高級国産カメラの製作を計画し、1940（昭和15）年の「マミヤシックス（I）」をスタートに個性のかつ多様な使用目的に応える機種を次々と送り出してきました。

今回の特別展では、独自のアイデアと工夫に満ちた歴代機種の数々を展示、紹介いたします。

- 出品点数 カメラ:約200点 その他アクセサリ、用品、資料等
- 開館時間 午前10時~午後5時
- 休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)
※年末年始 2006年12月28日(木)~2007年1月4日(木)
- 入場料 一般:300円 中学生以下:無料
MCC会員割引:200円(受付で会員証をご提示下さい)
- 展示協力 マミヤ・デジタル・イメージング株式会社



〒102-0082 東京都千代田区一番町25JCI1一番町ビル
TEL:03-3263-7110 FAX:03-3234-4650
URL:http://www.jcii-cameramuseum.jp

日本カメラ博物館

●開館時間=10:00~17:00
●入館料=一般300円(団体200円)
小・中学生無料
●休館日=毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
●交通=地下鉄半蔵門駅下車⑤番出口から徒歩3分
都バス(四谷駅⇄晴海埠頭)半蔵門下車徒歩4分

(駐車場はございませんので、お車のご来場はご遠慮下さい。)

『若葉薫る新緑の裏磐梯撮影会』後記 2006年5月19日(金)～20日(土)

裏磐梯というと紅葉のイメージが強いが、紅葉が良い所は新緑も良いもので、今回は瑞々しい新緑の裏磐梯を撮影しにやってきた。

バスは東京を発ち、途中猪苗代駅に寄り全員集合。昼食を食べて最初の撮影地は猫魔スキー場。スキーはオフシーズンなので管理事務所に許可を得てゲートに入れてもらう。対応して頂いた方が写真好きのマミヤカメラユーザーだったので話が早い。

高台からの松原湖の遠景、エンレイソウやシダが茂り、このあたりの水源になっているという雪解け水を走らせる小溪や滝。曇り空ではあったが、やわらかな光としっとりした雰囲気写真には功を奏し、それぞれが工夫を凝らした撮影を楽しむ。

夕刻が近付き撮影地を曲沢沼に移動。時折切れる雲から覗く、既に赤味を帯びた陽を見ながら沼に写る新緑を撮影し宿に戻る。川口邦雄先生による夜の写真教室は構図やフィルムワークなど撮影に関するテクニックから参加者の持ち寄った作品講評まで写真談義に自熱した。

翌朝は秋元湖での日の出撮影を予定していたが、撮影地に着いた途端にパラパラと雨粒。昨日一杯は我慢してくれていた雨も、日の出の時刻が近づくにつれて本降りになってくる。日が出ているはずの時間になっても厚い雲が邪魔してあたりは真っ暗、早々に退散する。

以降の予定を思案しながら朝食をとっている間に再び

天気は回復してきたので、午前中いっぱい予定通りのんびりと五色沼をめぐるながらの撮影を楽しんで、新緑をめぐる裏磐梯の撮影行程が終了。

入梅前の撮影と思っていたところ少々気の早い気候に梃子搦らされたが清々しい撮影会になった。

(本誌 11、12 ページに撮影会コンテストが掲載されています)



MCC ORIGINAL GEAR

MCC 3D雲台 ●なめらかな操作の小型 3WAY 雲台。

中判カメラから大判カメラまで対応できる頑丈な小型雲台です。可動部の摺り合わせ面の平面性を極限まで高めており、適度な滑らかさとトルクが得られます。

- ・大型カメラの重量に耐える頑丈さ
- ・スムーズな操作性 ・レバー式でかさばらない
- ・ブレーキレバーのストップ位置はワンタッチ変更可能

素 材／アルミ削りだし
高 さ／120 mm
重 さ／800 g
カメラ取り付け部／60×80 mm
三脚取り付け部／80 mm

会員特別価格
94,500円(税抜価格 90,000円)
オプション
ネームプレート名入れ 3,000円



※ご注文はクラブ事務局までお電話か FAX にてお申し込みください。
ハンドメイド、オリジナル商品の為、受注生産。納期は1ヶ月程かかります。
(この商品につきましては、クラブポイント交換対象外とさせていただきます)

マミヤカメラクラブ撮影会予定

夕陽に染まる 八甲田撮影会

日程：2007年2月8日(木)～10日(土)
場所：青森県 八甲田、奥入瀬、十和田湖周辺
講師：林明輝先生
宿泊：酸ヶ湯温泉
定員：30名

マミヤカメラクラブ



写真を楽しむ・・・、
学ぶ・・・、そして集う。

写真を楽しむ、学ぶ、そして集う。
写真を通して写真を語り、撮影技術の向上を目指す方のためのクラブです。
マミヤカメラをご愛用の方ならどなたでもご入会できます。
講師指導の撮影会やクラブ員の全国フォトコンテスト、セミナーなどを実施しています。
撮影会では機材の無料貸出しがあり、使用してみたいレンズなどを試せます。
宿泊撮影会ではセミナーが開かれ講師のアドバイスが得られるほか、愛機のクリニック(点検・清掃)も受けられます。会員の方には、修理割引・オリジナルグッズ特別斡旋などの特典があります。

入会金：1,050円(消費税込み)
会費：4,200円(消費税込み) 2年会費
手続：入会のご案内(払込取扱票付き)を事務局にご請求下さい。

クラブ員特典

- クラブ誌「マミヤギャラリー」の配布
クラブ員の皆さまの写真をより多く公表する場としてのクラブ機関誌「マミヤギャラリー」を年2回配布します。
- 修理代金の割引
ご愛用のマミヤ製品の点検・修理を依頼する場合には、通常の修理代金より割引いたします。
- マミヤカメラクラブメール
クラブ主催のイベントや新製品情報など、写真に関する情報をいち早くお知らせいたします。
- マミヤオリジナルグッズの特別斡旋販売
マミヤ特製オリジナルグッズをクラブ会員特別価格でご提供させていただきます。



入会のお申し込み・お問合せは
マミヤカメラクラブ事務局

〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命上野公園ビル 4F
TEL.03-5688-8024



マミヤカメラサービスセンター

修理をはじめオーバーホール、清掃などを専門に承ります。
また、マミヤ全機種を展示。実際に手にとって操作感や質感を確かめられるとともにお客様の個性に応じた商品選定などのアドバイスも提供しています。
また、操作上の疑問にもお答えしています。電話、ファクスでも承ります。

東京サービスセンター TEL 03-5688-8306 FAX 03-5688-8040 営業時間 9:00～18:00
大阪サービスセンター TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769 営業時間 9:00～18:00
土、日、祝日は休業

マミヤ・デジタル・イメージング株式会社

本社 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F
商品・修理に関するお問い合わせは、下記へご相談下さい。
東京サービスセンター 〒110-0005 東京都台東区上野2-14-22 明治安田生命 上野公園ビル4F
TEL 03-5688-8036 FAX 03-5688-8039
大阪サービスセンター 〒550-0015 大阪府大阪市西区南堀江1-10-11 西谷ビル
TEL 06-6541-5631 FAX 06-6541-5769

修理に関するお問い合わせは、マミヤカメラ認定修理センターへお問い合わせください。

マミヤカメラ認定修理センター

北海道地区 株式会社タックカメラサービスセンター・〒060-0053 札幌市中央区南3条東4丁目
TEL 011-221-8507 FAX 011-232-3344
東北地区 M C フ ロ テ ッ ク ・〒983-0841 宮城県仙台市宮城野区原町5丁目3-44 森ビル202
TEL 022-297-3846 FAX 022-256-1808
東海地区 山田テクニカルサービス・〒496-0026 愛知県津島市唐臼町大門99
TEL 0567-32-2708 FAX 0567-32-3454

※マミヤカメラ認定修理センターでは、商品の説明に関する業務はいたしておりません。

《マミヤホームページ》<http://www.mamiya.co.jp>